



チャンスの前髪と夢のしっぽ

20年前から文科省を中心に「キャリア教育」（本校では「はないち」）が提唱されています。今では小学校でも定着しています。そんな中「ブランド・ハプンスタンス理論」という言葉と出会いました。直訳すると「計画された偶発性理論」といい、スタンフォード大学のジョン・D・クランボルツ博士が提唱した有名なキャリア論です。

人のキャリアは偶然の出来事、予期せぬ出来事に対し、最善を尽くし、対応することを積み重ねることでキャリア形成されると説いています。偶然の出会いが人生を構築していると言っています。これは私自身、今、この学校にいることを考えればとても腑に落ちる感覚です。誰にでもそういう部分はあるのではないのでしょうか。

みなさんは「好きで得意」なことでキャリア形成したいと考えていることが多いと思います。でも自分が「好きだ」と思っていることが、世間でも認められるほど「得意」なこととは言えないかもしれません。そのレベルに達していないこともあります。逆に「嫌いで不得意」だと思っていることが、一般的に見れば素晴らしい才能である可能性もあります。もし、みなさんが世の中に出たときに「好きで得意」なことが職業になれば、それはとても幸せなことだと思います。しかし、そうならない場合においても、さまざまな縁や出会いがあります。その縁や出会いを大切にすることで、もしかしたら「チャンスの前髪と夢のしっぽ」をつかむことができるかもしれません。

前出のクランボルツ博士は次の5つのことを、キャリアを歩む力としています。

1 好奇心

ここで言う好奇心は、興味をもつこと以外に「何だろう」とか「なぜだろう」と探求心をもつことを意味しています。知ったかぶり、興味の無いフリは大きなマイナスになり、知らないことを知らないと素直に言って「なぜ」「どうして」と思考、対話、探求をすることが大切です。昔「ボ〜っと生きてんじゃねえよ!」という言葉が流行りましたが、その反対は「好奇心をもって生きていこう!」になります。

2 持続性

まずは大好きなことで夢中になる経験が必要です。その中で、失敗に屈せず努力する経験をします。そこで獲得した持続力で、やらなければならないことも、嫌いなことも取り組むようにすれば、たいていの課題はクリアできます。

3 楽観性

失敗を恐れないチャレンジ精神のことになります。「自分にもできるかも」という感覚をもつことが大切になります。私の座右の銘「やる気は後からついてくる」は、心理学的には「作業興奮」と言います。「まあやってみよう」と動き始めてみたら、いつの間にか頑張っているという感覚のことです。

4 柔軟性

この10年間、マインドセットという言葉が広く使われるようになりました。私もよく使います。本校の毎朝の礼拝のことも「一日のマインドセット」と言ったりもします。マインドセットには、融通がきかない「硬直型マインドセット」と柔軟でしなやかな「成長型マインドセット」があります。もちろん「成長型マインドセット」が大切です。日々変化する勇気をもとう。

5 冒険心

「3楽観性」に似ている感覚だと思います。結果が不確実でも行動を起こすということです。あえて挑戦するというマインドです。これは、「2持続性」にもつながります。「打たれ強い心」を育てることにあります。

以上が、「キャリアを歩む力」についてですが、みなさん、「成功と失敗」の共通点は何だと思えますか？それは、両方とも「チャレンジした」ということです。

1学期は「お互いのことを知る」、2学期は「誰とでも組める力」、そして3学期は「集大成」です。みなさんが成功も失敗も受け入れながら、チャレンジしていく生徒であってほしいと思います。集大成の3学期も期待しています。

（学校長 重枝 一郎）

